

令和八年版 祈祷のご案内

◎交通安全祈願

「新車・中古車を購入した時にお祓いを受けます」
交通事故は、ちょっとした不注意や心のゆるみから発生するものです。お祓いにより、車を清めて神さまのご加護をいただきます。新車や中古車を購入した折に、交通安全祈願を行い、無事故を祈りましょう。
★祈禱を受けた方にお神札・お守り・お神酒・ステッカー・本革製キーホルダーを授与します。

◎初宮詣

「生後30日前後にお祓いを受けます」
初宮詣は、赤ちゃんが授かったことへのお礼とお子様のすこやかな成長とを祈り、お子様を氏神さま（地域をお守りくださる神さま）にお目にかけ、一人の人間として認めていただく行事です。参拝日は生後30日前後といわれていますが、赤ちゃんの健康や母親の産後の回復を見てご参拝ください。
★祈禱を受けた方にお神札・お守り・お喰初め食器セット・歯固めの石を授与します。

◎安産祈願

「5ヶ月目の都合のいい日にお祓いを受けます」
お母さんのおなかの中に赤ちゃんが宿ると、五ヶ月目の戌の日に『帯祝い』が行われます。戌の日を選ぶのは、犬が安産であることにあやかるものです。平安無事に赤ちゃんが誕生するように祈りしましょう。安産祈願の御祈禱（お祓い）は、戌の日に『帯祝い』が出来るように、戌の日の前のご都合のいい日にお祓いを受けてください。
★祈禱を受けた方にお神札・お守り・腹帯・お神酒を授与します。

◎家内安全

「これからのご家族の幸せを祈りましょう」
これからの、ご家族一人一人が健康で有意義に楽しく過ごされるよう、家内安全と諸災祓いをお祈りいたします。ご家族おそろいになり、おいでください。
★祈禱を受けた方にお神札・お神酒・家内安全縁起物を授与します。

◎健康・身上安全祈願

「あなたの健康と身上の安全をお祈りいたします」
健康が一番だと分かっている、体に負担をかけ無理をすることも度々だと思えます。健康と身上の安全をお祈りし、神様のご加護をいただきます。★祈禱を受けた方にお神札・お守り・お神酒・守護鉾を授与します。

◎合格祈願

「志望校合格を勝ち取りましょう」
受験生のこれまでの努力が実を結び志望校に合格できるように祈りましょう。★祈禱を受けた方にお神札・お守り・合格えんぴつ・合格だるまを授与します。

◎縁結祈願

「良い縁があるように、また好きな人と縁が結べるように」といつの世も人々は願ってまいりました。神さまが良い縁を授けてくださるようにお祈りしましょう。★祈禱を受けた方にお神札・縁結びお守り・縁結びみぎ玉・お神酒を授与します。

◎子授け祈願

「子宝に恵まれますように」
「赤ちゃんが欲しいけれど、なかなか子宝に恵まれない」というお悩みをお持ちの方は少なくありません。一人目が欲しいと願う人、二人目が欲しいと願う人など様々です。そんなときこそ、心静かに神さまにお祈りいたしましょう。
★祈禱を受けた方にお神札・子授けお守り・子宝の神玉・お神酒を授与します。

◎清祓い

「身に付いた一切のけがれをお祓いいたします」
「最近、病気がちで…」や「ケガが多くて…」など、大きな病気やケガではないけれど、どうも調子が良くないと感じる方、また「最近良くない事が続く」などと感じる方がいます。神道ではこのような状態を「けがれ」といいます。清祓いとは、この「けがれ」をお祓いにより取り除き清らかな普通の生活に戻るための祈禱のことです。
★祈禱を受けた方にお神札・お守り・開運鉾・お神酒を授与します。

◎虫切り祈願

「虫切り祈願」とは、お子様の小児の疳（かん）の病、夜泣き、かんしゃくを起こさせる虫を封じることです。
★祈禱を受けた方にお神札・お守り・御神矢・お神酒を授与します。

◎水子慰霊祭

「必要予約 玉串料1万円」
この世に生まれることが出来なかった赤ちゃんの御霊（みたま）を慰めます。

◎商売繁盛・社業繁栄安全祈願

「会社の繁栄と業務安全を祈願します」
今年一年の社業の繁栄（商売繁盛）と業務に伴う安全を祈りましょう。（御初穂は2万円〜3万円）
★祈禱を受けた方にお神札・お神酒1升を授与します。

◎厄祓い・方位よけ

「苦流祈願・延寿祭」
★祈禱を受けた方にお神札・お守り・延寿祭・下記の表を参照し、

【厄祓い（やくはらい）】

昔から「厄年」といって特に気をつけなければならぬ年齢があります。これは、人生の大きな節目でもあり、お祓いを受けて無病息災と人生の弥栄を祈り、謙虚な 気持ちで日々の生活を送ります。



★祈禱を受けた方に、お神札・お守り・開運厄除縁起物・お神酒を授与します。

【延寿祭（えんじゅさい）】

延寿祭は、年祝いとも言われ、これからの人生を健康で楽しく過ごせるように、長寿を祈りお祝いするものです。ご家族の方が長寿であるということは、おめでたいことです。日頃のご加護に感謝し、ますます元気で長生きできるよう祈願します。
★祈禱を受けた方に、お神札・お守り・開運縁起物・お神酒を授与します。

厄年早見表 ※年齢は数え年					
男			女		
前厄	41 歳(昭和 61 年生)	前厄	32 歳(平成 7 年生)	前厄	32 歳(平成 7 年生)
本厄	42 歳(昭和 60 年生)	本厄	33 歳(平成 6 年生)	本厄	33 歳(平成 6 年生)
後厄	43 歳(昭和 59 年生)	後厄	34 歳(平成 5 年生)	後厄	34 歳(平成 5 年生)
厄年	25 歳(平成 14 年生)	厄年	19 歳(平成 20 年生)	厄年	19 歳(平成 20 年生)
		厄年	37 歳(平成 2 年生)	厄年	37 歳(平成 2 年生)

延寿祭早見表 ※年齢は数え年、男女共通	
還暦(かんれき)	61 歳(昭和 41 年生)
古希(こき)	70 歳(昭和 32 年生)
喜寿(きじゅ)	77 歳(昭和 25 年生)
傘寿(さんじゅ)	80 歳(昭和 22 年生)
米寿(べいじゅ)	88 歳(昭和 14 年生)
卒寿(そつじゅ)	90 歳(昭和 12 年生)

【苦流（くりゅう）祈願】

よく年齢に9が付く年はよくないといわれますが、これをお祓いするのが苦流祈願で、「苦(く)」を流し「十(じゅう)」にして充実した人生を送れるように、また、何事も無く年齢を重ねられるようにと祈願するものです。
★祈禱を受けた方にお神札・お守り・苦流祈願守護弓矢・お神酒を授与します。

【方位よけ(八方よけ・鬼門よけ・病門よけ)】

方位よけとは、年まわりが悪く「やることなすことうまくいかない」と言われているもので、方位よけのお祓いにより、その一切の災厄とさわりを取り除くものです。
★祈禱を受けた方に、お神札・お守り・方位よけ縁起物・お神酒を授与します。



方位よけ早見表 ※年齢は数え年、男女共通					
八方よけ(はっぽうよけ)		鬼門よけ(きもんよけ)		病門よけ(びょうもんよけ)	
73 歳(昭和 29 年生)	37 歳(平成 2 年生)	76 歳(昭和 26 年生)	40 歳(昭和 62 年生)	79 歳(昭和 23 年生)	43 歳(昭和 59 年生)
64 歳(昭和 38 年生)	28 歳(平成 11 年生)	67 歳(昭和 35 年生)	31 歳(平成 8 年生)	70 歳(昭和 32 年生)	34 歳(平成 5 年生)
55 歳(昭和 47 年生)	19 歳(平成 20 年生)	58 歳(昭和 44 年生)	22 歳(平成 17 年生)	61 歳(昭和 41 年生)	25 歳(平成 14 年生)
46 歳(昭和 56 年生)	10 歳(平成 29 年生)	49 歳(昭和 53 年生)	13 歳(平成 26 年生)	52 歳(昭和 50 年生)	16 歳(平成 23 年生)

～ みなさまのところへ伺ってのお祓い ～

《住まいに関するお祓い》

地鎮祭、新宅祭など、神職がお伺いしてご要望に応じた祭典を行ないます。

解体清祓（かいたいきよはらい）～解体のお祓い～

古くなった建物を壊すにあたって行われるお祓いが「解体清祓」です。建物を祓い清め、家屋の守り神に対してこれまで長年にわたり、何事もなく無事に過ごさせていただいた感謝の気持ちを表すとともに、解体工事がすみやかに無事終了するように祈願します。

※施主が準備するものは、お初穂です（詳細は下記）。そのほかは神社で準備します。

地鎮祭（じちんさい）

地鎮祭は、建物の新築に際して土地の神さまをお呼びして工事の安全を祈願するお祓いです。大地は、小さな虫から動物・草木までも生かす大きな力を持っています。その土地を人間が使うのですから、その恵みに感謝することが大切なのです。土地の神々に敬意をはらい、使用の許しを得て工事の安全を祈願いたします。

※建主が準備するものは、お初穂（詳細は下記）、そして川砂をバケツに2, 3杯（建設会社・工務店にお願いしてください）です。そのほかは神社で準備します。

新宅祭（しんたくさい）

新宅祭は、完成した建物を祓い清め、工事が無事に終わり、立派に完成したことを神さまに奉告し、家庭の安全を祈ります。また、この際に神棚を設けてこれから末永く家庭をお守りいただくように神さまをお祭りすることが大切です。

※建主が準備するものは、1、神棚(家庭用の社殿)と神具一式（鏡・榊立て・お供え用の皿など）
2、お初穂です（詳細は下記）。お神札や祭壇などは、神社で準備します。

《みなさまが準備するもの》

【お初穂（祈禱料）】

個人 25, 000 円より、会社・団体 3 万円より申し受けます。

《神社が準備するもの》

お供え物、祭壇一式、その他お祓いに必要なものすべて神社側で持参します。また、お車での送り迎え（送迎）は必要ありません。お約束の時間の 10 分前から 15 分前に現地に直接伺います。

《鹿嶋神社参拝のしおり》

《御 祭 神》武甕槌命（たけみかづちのみこと）

《御 由 緒》宝亀年間（770～780）光仁天皇の御代にこの地に祭られ、弘仁 2 年（811 年）坂上田村麻呂が東夷征伐の際、改めて常陸国鹿嶋大明神を勧請した神社で、白河地方の総鎮守とし、武の神、白河以北を守る神として、戦勝を祈願したと言われています。延喜式神名帳（成立 927 年）に残る式内社でもあります。その後も歴代城主の尊崇あつく、城主自ら奉幣、参籠し、祭田や社殿の寄進もありました。文明 13 年（1481 年）時の城主小峯政朝が神社において一万句奉納の連歌会をおこないました。著名の連歌師、宗祇が西国からはるばるこの地にやって来たのも、この会に出るためでした。このことは、当時の白河地方の文化が相当高い水準であったことを示しています。文化 3 年（1783 年）松平大和守により『鹿嶋大神宮』の額（白河市歴史民俗資料館寄託）が、また大正 14 年（1925 年）海軍元帥東郷平八郎により『鹿島宮』の額が奉納されています。この額は今も神社の正面に掲げられています。寛政 7 年（1796 年）には『楯無し（たてなし）のよろい』（市文化財）も奉納されています。明治 43 年（1910 年）不幸にして火災にあい、建造物、備品のほとんどを消失しましたが、大正元年（1912 年）再建され現在に至っています。また、古来より歌枕にある「転寝の森（うたたねのもり）」は、当神社の飛地境内で、東へ約三百メートルのところにあります。

《年 間 行 事》

9 月の『敬老の日』の直前の金、土、日曜日には、例大祭がおこなわれますが、これは明暦 3 年（1657 年）時の城主、本多能登守忠義が神輿を奉納し、祭事についてこまごまと制定し、現存する『白河提灯まつり』の原型を作ったもので、祭日には神輿の渡御があり、行列は各町町印の提灯をともし、その数は数千ともなっており、まさに火龍のごとき壮観を呈します。そのほか当神社には毎月 1 日の月次祭（つきなみさい）をはじめ、1 月 1 日の歳旦祭、1 月 3 日の元始祭、1 月第 3 日曜日の節分追儼祭、2 月 17 日の祈年祭、11 月 23 日の新穀感謝祭、7 月下旬と 12 月 31 日の大祓え等の祭りがあり、国家の隆昌と、氏子・崇敬者の繁栄と平安をお祈りしています。

令和8年版

祈禱のご案内



【祈禱受付時間】

午前 9 時～午後 4 時

※祈禱ご希望の方は、平日、土日祝日ともにご予約の上おいでください。

おはつほ

【御初穂(祈禱料)について】

- 厄祓い・交通安全祈願・初宮詣・安産祈願など、
個人のご祈願は、1 祈願 5, 000 円です。
- 水子慰霊祭は、1 万円です(要予約)。
- 商売繁盛・社業繁栄祈願など、
会社のご祈願は、2 万円～3 万円です。
- 神社で行う工事安全祈願は、2 万円～3 万円です。

白河地方の総氏神様
鹿嶋神社
TEL (0248) 23-3079



<http://www.kashimajinja.jp>